

ク
ル
バ
ナ



花ハ咲クケレド、
君ハ花ニ水ヲ落トスケド、
マダ白イ君ノ心ハ
無様ナ棘ニ氣付カナイ。
コノ花ノ名前モ
知ラナイクセニ…

クルレイバナ





一瞬の熱にうかされて咲いた花のように、



死に急ぎ、瞬きもせず、





狂イ咲いたのは・・

狂イ花





コレコレ。



クルイザキ?

温度差が
花を咲かせ
ちゃつたのよ。

気候が不安定だから
丁度、島と島の
境目あたりなのね、

出来ないわよ
この間アンタ一人で
食べたでしょ！

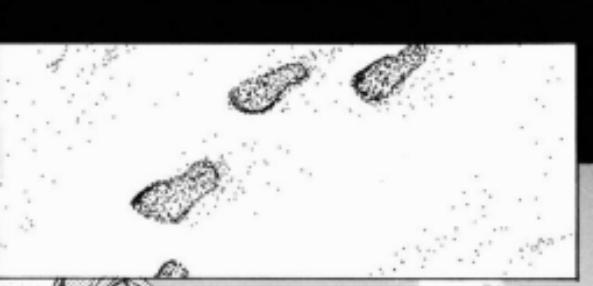
ミカン
できるかな？

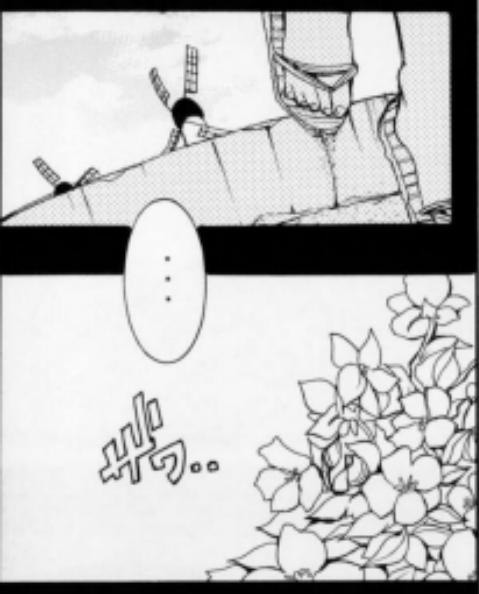
・ふーん

ゾ
あ
ロ！

そつかあ残念
美味しいのに！









「待ッテ‥行カナイデ。」



「モット、モット、強クナルカラ‥」





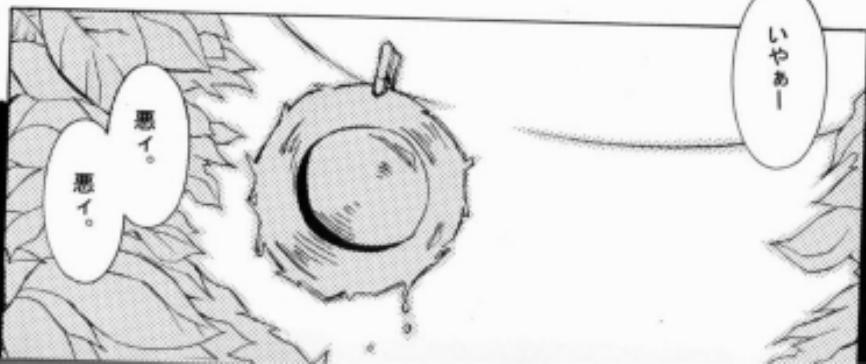
あの時、「連れて行って」と
ヒトコト言えなくなっていた
のは・・・



シャンクスが残して
いってくれた
血の匂いも、



甘い花の匂いに搔き消された。



いい加減
泳げねえのに
飛び込むな！

あきらめ
あきらめ

・・あのなあ
ルフィ・・

ゾロが

やつぱ
狭いよなー

オレ海に
落ちるの全然
平氣なんだ。

いつもオレの
傍に居てくれるだろ?
だからさー

ありがとう
ゾロ。









ルフィ自身も共存を望む分、



その圧倒的な存在感で
人を引き寄せる。

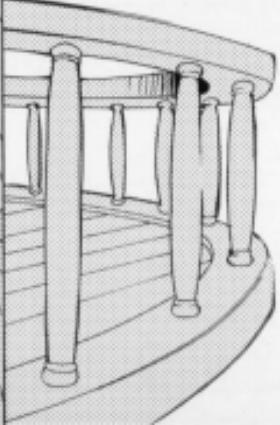
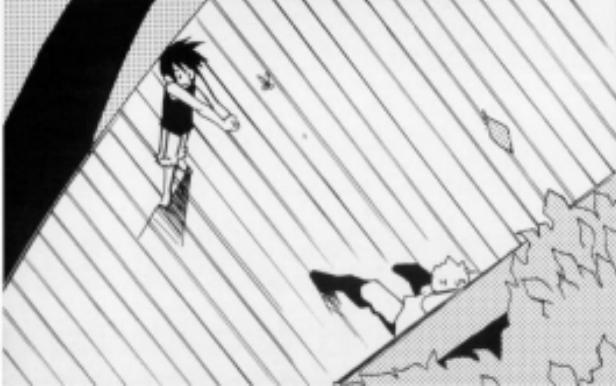


自分にかけるブレッシャーは
計り知れない。



自ら血を流す事を
躊躇わるのは
強くあるための種。

濡れといて
何言つてやがる





むせるほどの花の匂い。





ゾロの匂い...



むせるほどの、
血の匂い。





人を切り、
返り血をあびる。



強くなる糧。

殺氣に重なり襲う既視感。



忘れていた
血の匂いを思い出させる。







空は遠く、もがき続ける。

初めて、この手になにかが
掴めた様な気がした。



同ジ路ヲ歩ク――



手を伸ばす自分の様で、
ゾロが同じように手を伸ばす

感謝して
る。

ゾロが
海賊になっ
て、



でも――

一緒にどこまで行ける？

その果てには何がある？



すべてこの手に入ったら、
血の匂いを忘れられると思う？



狂い咲いたのは「夢」。



てめえで
誘つといて、

今更
何言つてんだ…



夢の代償は「死」。



・誓おまえに
・つまえに
・たらな

傍死ぬまで
に居る。
・

空はまだ遠くて、足元の花だけが赤くなるばかり。

THE

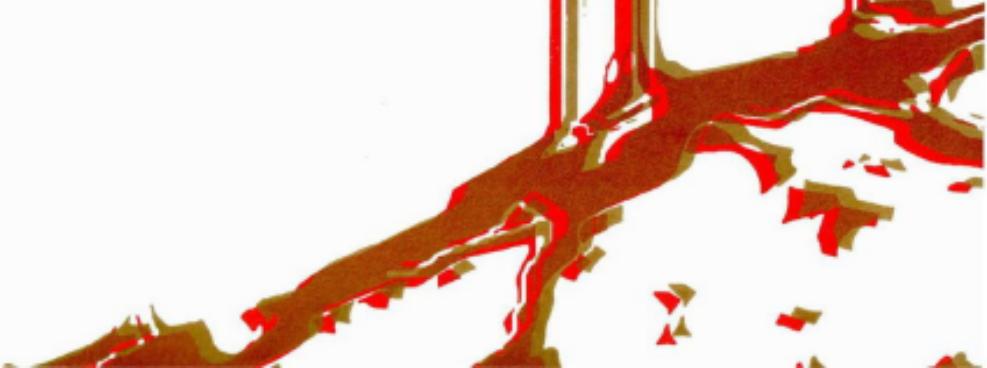


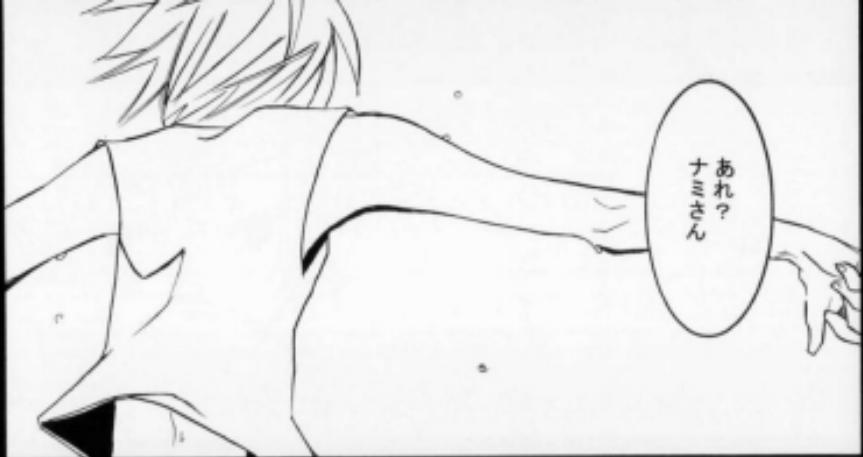


散ッテ、
アナタニ残ルナラ
ソレダケデ・・・



クレバナ





埋め込む妄想。



治りかけた傷口もこじ開けられて。

ヨロコビニサクハナ

外。



飛び出して
行つたわよ

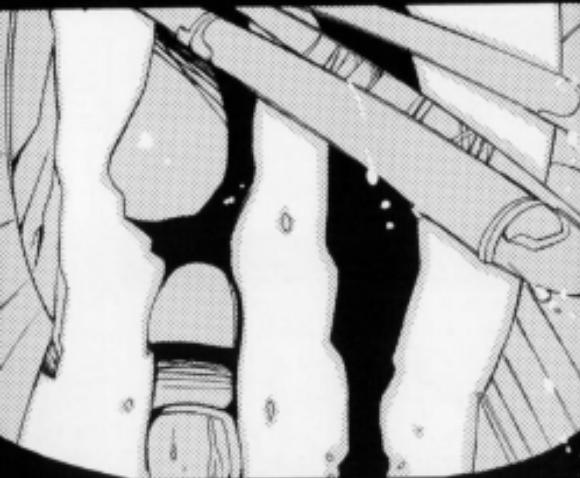
嵐が来る
って言つたら

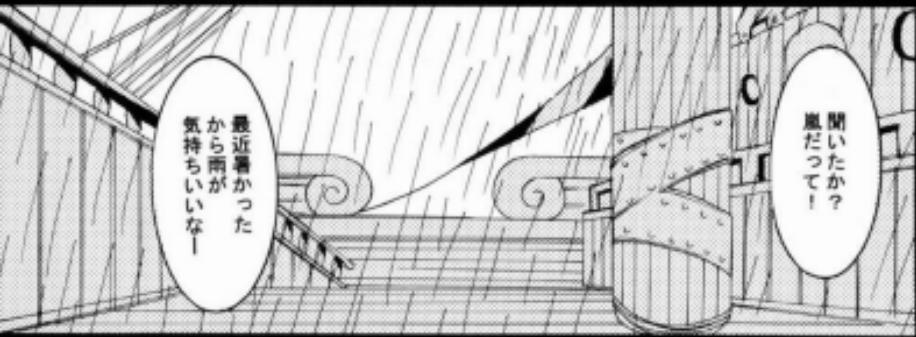
でも大丈夫よ
サンジ君。

フフツ…
確かに馬鹿ね。

バカだなアイツ
海にでも落ちたり
したら…：









「証明スルヨ。」

怪我なんて
怖くないんだ・

オレは遊び半分
なんかじやない分



あの日の
幼稚な傷跡をこじ開けてあげる。



——多分、

ゾロー！

痛
い
つ
て
・
・

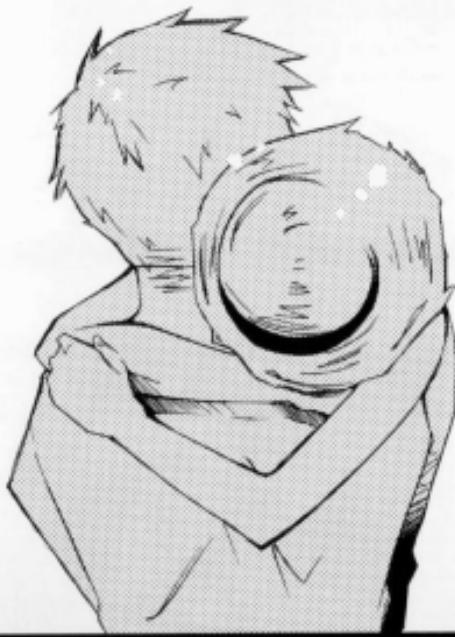
ゾ
ロ
・
・

・
・
ツ

ゾロもルフィも
気づいてるんじゃないかな。

傷跡が
疼くのよ
・
・

嵐が
近づくとね

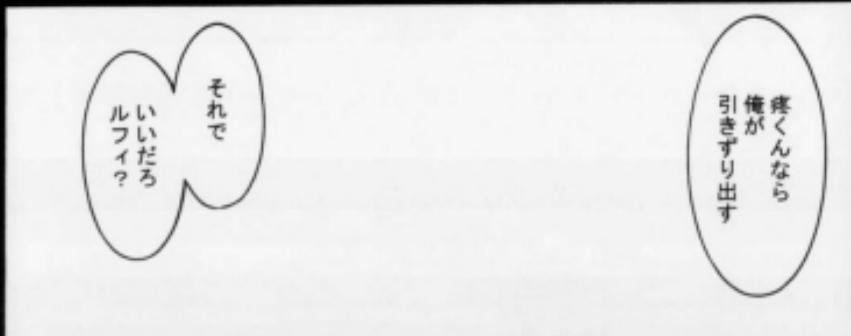


居てもたつても
いられないのよ



俺が
こじ開ける。

・痛くんなら
俺が
引きずり出す



それで
いいだろ?

ルいいだろ

うん。



傷口に埋め込んだ過去が動き出す。

やんだな…



おまえは
からなあ。
・
加減を知らねえ

ゾロの
なんなら
やろうか?
オレしが

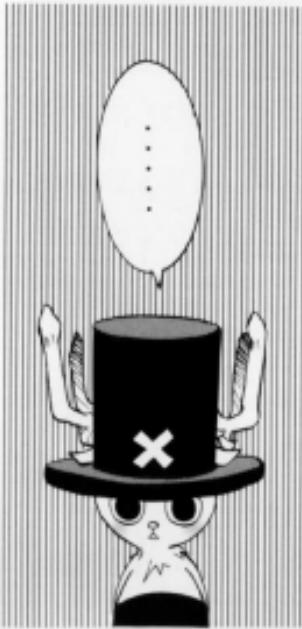
それでも呻吟を繰り返す日々。

information [rat 1]



椿カラリ個人サークル「ラットイチシキ」デハ
ワンヒースヲ中心ニ、東京ノコミックシティデ
活動シテオリマス。









花ハ散ルケレド、
君ハ土足デ踏ミニジルケド、
セメテ君ノ弱イ心ニ
棘ヲ刺スヨ。
コノ花ノ名前ヲ
忘レナイヨウニ…

実験用鼠壺式作成ノ參
狂イ花

武千式年八月十八日
発行元/実験用鼠壺式/椿カツリ



ONE PIECE
ZORO-LUFFY ONLY
[Confusion flower.]
Production.
rat ichishiki